



きよ てる  
樋口清輝 24歳 <内牧2区>  
ホームページ  
<http://kiyoteru-higuchi.infoseek.co.jp>

「テコンドー東アジア大会代表選考会」マイナス68kg級で樋口選手優勝！の記事が8月23日の新聞のスポーツ欄に大きく踊る。これにより中国・マカオで10月29日から開催される第4回東アジア大会に日本代表として出場することが決まり、さらに7月には台湾で開催された「国際台湾彰化オープンテコンドー選手権大会」でも優勝。  
樋口選手の好調ぶりがうかがえるこの夏、久しぶりに樋口選手が阿蘇に里帰りしました。

## 韓国に渡り10年、テコンドーに生きる戦士

### ～2008 北京オリンピックへの挑戦～

本場テコンドー王国「韓国」へ留学して得たものは何なのか話を聞きました。

樋口選手がテコンドーを始めたのは、小学5年の時。熊本で最初にテコンドーの道場を開いた父悦夫さん(現県協会会長)の指導で練習を行い、阿蘇北中時代は、剣道部に所属しながら、テコンドー道場へ通う日々。

この努力が実り、県大会、九州大会で入賞を果たす。中学1年の夏、合宿で訪れた本場韓国のテコンドーを目の辺りにして、強くなりたいとの闘志が膨らむ。そんな中、父は「韓国の高校へ行き本場のテコンドーをやってみるか」と、中学3年の長男に告げました。

平成8年、韓国豊生高校に留学。本場韓国で強くなる！と立って3ヵ月目の日記には「練習がきつい、でも友達ができないうことが一番つらい」と言葉や文化の違いで生じた孤独感に、おそれ毎日布団の中で家族の写真を見ながら泣いていた。厳しい現実がありました。

しかし、朝5時から夜遅くまでの練習に耐えに耐え、豊生高校3年の時には、韓国で最も大きな全国大会に学校代表として出場。そして優勝、「このときの喜びは生涯忘れない」と力強く語る瞳に当時の努力のほどがうかがえました。  
以後、次々に国内外で勝利し、このときから、オリンピック

正式競技となった「2000年シドニーオリンピック」に出場しました。試合は初回から優勝候補の台湾の選手とあたり、いきなり決勝戦?!と注目の一戦となりました。結果、惜しくも破れた樋口選手。しかし地元挙げてテレビにかじりつき応援した人たちに大きな感動を与えてくれました。

### 阿蘇で育ってよかった

「阿蘇に帰り、今、この辺りをランニングしていますが、しみみしい所だと思えます。僕は日本中、世界も何カ国か行きました。こんな美しい所はありません」と久々の阿蘇を楽しむ樋口選手。

現在、韓国の啓明大学に通いながら、次の北京オリンピック出場を目指しています。

### 夢は、テコンドーの魅力を生かすこと

「テコンドーは人を倒す競技でなく技を見てもらう競技。韓国では、ダイエツトや音楽に合わせてなど、気軽に楽しむ方が多いんですよ、ぜひ、日本中に広めたいと思っています」と言い残し、また、韓国へ帰って行きました。  
強くなつたのは体や技だけでなく、精神的にも大きく成長した樋口選手。阿蘇市を代表する真のトップアスリートです。

## 協会員が交通安全を誓い

阿蘇地区交通安全協会主催の「第17回女性部ミニバレーボール大会」が、8月28日の宮中学校体育館で行われました。

大会には、協会13支部から12チームの選手が熱戦をくりひろげ、親睦を深めました。

また、大会にあわせて「交通標語コンクール」も行われ、31点の応募の中から、入賞作品が選ばれました。最優秀作品は、1年間同協会の「交通標語」として使われます。

試合の結果は次のとおりです。

優勝 黒川支部 2位 坂梨支部

交通標語入賞作品

最優秀作品

「急がずに ゆっくり満喫 阿蘇の道路」

内牧支部 小嶋富士子

優秀作品

「赤ちゃんの 笑顔を守る チャイルドシート」

黒川支部 寺原なつみ

「ハンドルを 持ったら 携帯ドライブモード」

古城支部 管 光子